



## コウナゴ漁期前調査情報

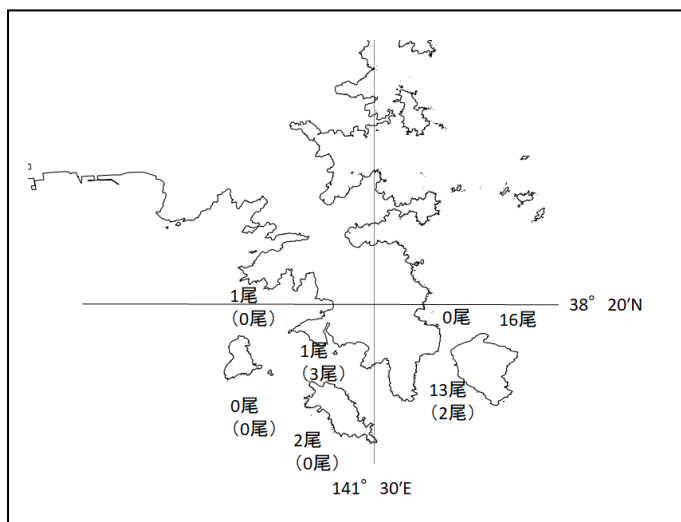
令和2年1月27日に漁業調査指導船開洋（19トン）により、稚魚ネットを実施した表層曳き（5分）と令和2年2月7日に漁業調査指導船みやしお（199トン）により、ボンゴネットの中層曳きで実施したコウナゴ分布調査結果についてお知らせします。「開洋」で実施した牡鹿半島周辺海域の平均採捕数は4.7尾と昨年（1.0尾）と比較して多くなっていました（図1左）。

一方、みやしおで実施した仙台湾のコウナゴ平均分布密度は、0.014尾/m<sup>3</sup>となり、昨年（0.094尾/m<sup>3</sup>）の15%でした。過去10年（2010～2019年）の平均値（0.964尾/m<sup>3</sup>）の1.5%で、極めて低い値となっています（図1右）。

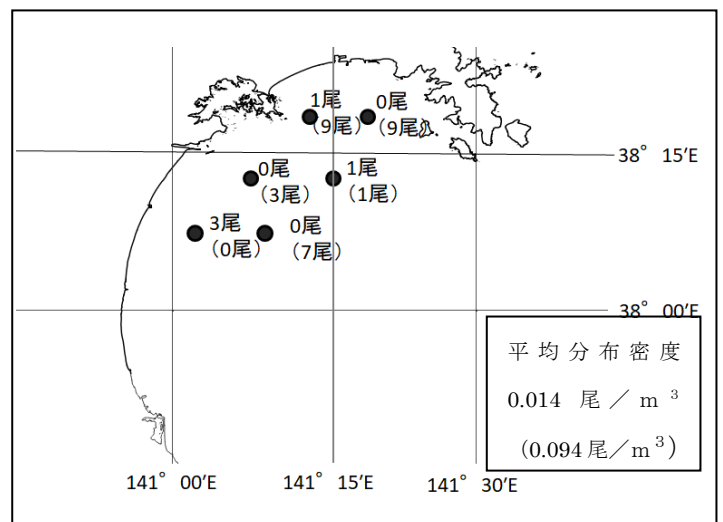
近年コウナゴ分布密度と漁獲量は共に減少傾向にあり、今年の漁獲も低調が続くと予想されます（図2）。

コウナゴの体長は、牡鹿半島周辺において2.5～15mmの範囲で、平均体長は3.9mm、仙台湾は4.0～10mmの範囲で、平均体長は7.2mmでした。（図3）。

次回のコウナゴ漁期前調査は北部海域で2月12日～14日の間で実施予定です。



開洋（19トン）  
稚魚ネット5分曳き  
令和2年1月27日



みやしお（199トン）  
ボンゴネット曳き  
令和2年2月7日

（ ）内は昨年の値

図1 コウナゴ採捕数

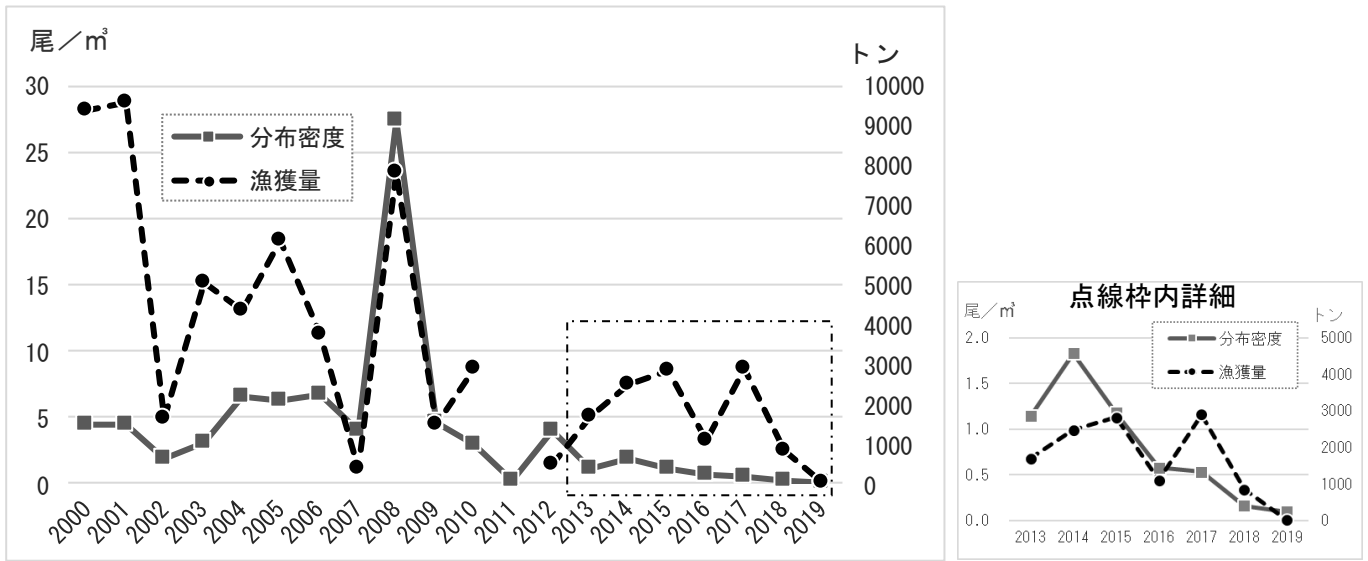


図2 火光利用敷網（ランプ網）のコウナゴ漁獲量と調査時の分布密度  
 （平成23年は東日本大震災の影響により水揚げ無し）

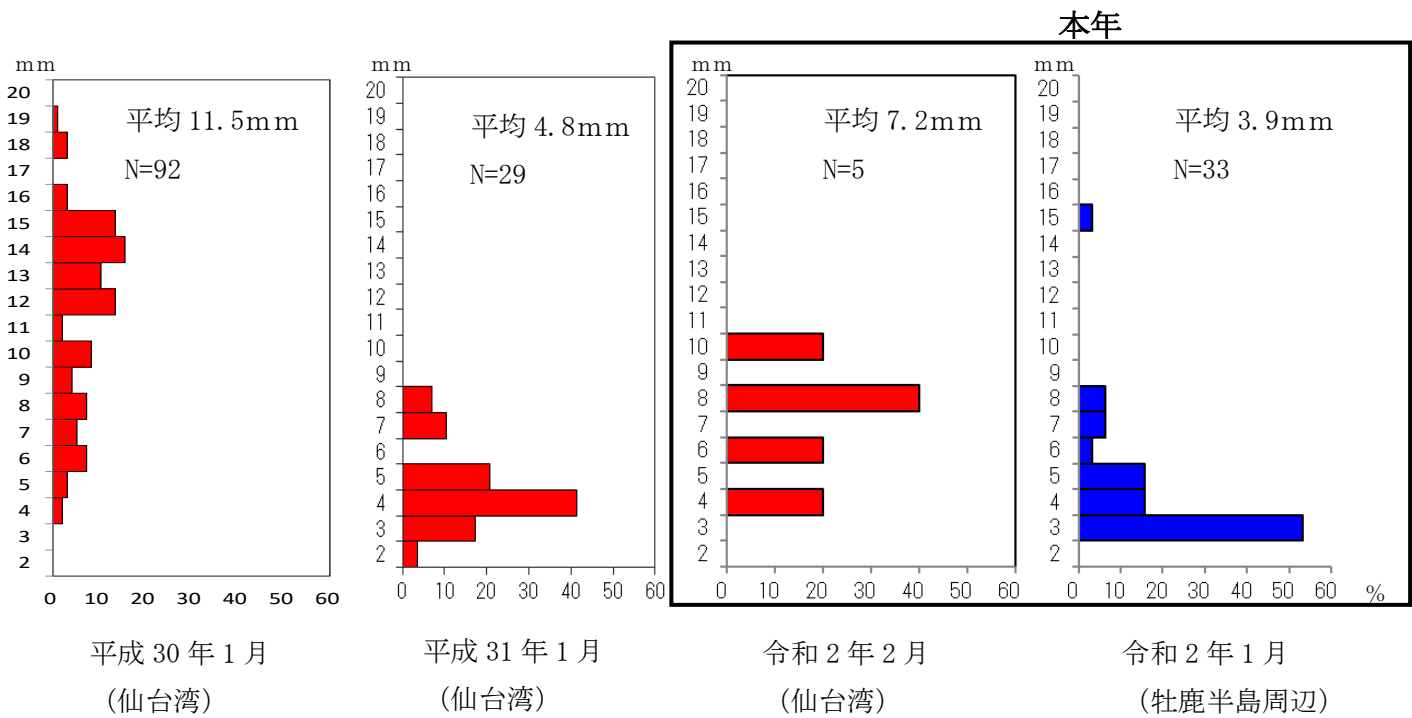


図3 コウナゴ体長組成